

# 新天地山梨で組合活動開始

横浜国際アパレル協同組合（小田切賢二理事長）は、平成27年11月に事務所を横浜市から甲府市に移転した。

移転については、小田切理事長の会社が山梨県内にあること、横浜市の組合員が退会したことを踏まえ、組合運営や新規の事業活動を行うために事務所を山梨に移転することとした。

組合は、平成15年1月に横浜市で設立され、山梨県や神奈川県など東日本13県の繊維製品製造業者を組合員として、共同事業である繊維製品等の共同受注、外国人技能実習生共同受入事業を実施している。

特に、外国人技能実習生共同受入事業については、ベトナム・中国からの技能実習生を受入れており、今年度からは、カンボジアの技能実習生を受け入れることとしている。

小田切理事長は、「現在、定款変更の手続き中だが、山梨に事務所を移転したので、組合名の変更を行っている。また、将来的には、組合員の職種を広げ、事業を拡大していきたいと考えている。組合員は、組合事業を通して、企業の活性化はもとより、技能実習生や企業に人間関係の大切さを教育し、企業運営に役立てていただきたい。」と語った。

組合は、活動をより一層推進していくため、組合員の加入促進を図っていく。

そのため、組合員の技術や経営、マーケティングのノウハウ等を提供しあい、ホームページで紹介する他、インターネットを利用した情報ネットワークの構築等の事業を実施していく予定である。



外国人技能実習生

さらに、技能実習生が日本で習得した技術を母国で生かせるように、ベトナムに職業訓練校を設置していく等、組合活動の活性化を図っていく。